

春の行事とお菓子



ひな人形やお供え物をして、女の子の成長と幸せを願うお祭り。桃の節句には、邪気をはらうとされる桃の花を飾り、ひなあられや菱餅などカラフルでかわいらしい色のお菓子が並びます。

ひな祭り
(桃の節句)



春の彼岸

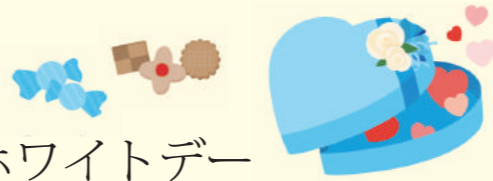
「暑さ寒さも彼岸まで」。春は「ぼた餅」、秋は「おはぎ」などを食べます。お彼岸にはご先祖様の墓参りに行く風景が見られます。

卒業・入学



入学式・卒業式を迎えると、お世話になった人への感謝の気持ちを贈ります。卒業祝には紅白まんじゅう、入学祝いでは赤飯・焼き菓子の箱詰めなどが定番です。

ホワイトデー



バレンタインデーのお返しを贈る日として、昭和50年代初め頃から流行。マシュマロ・クッキー・キャンディなどのお菓子を贈るのが主流でしたが、現在は多様化しています。

届けたいお菓子のものがたり

春は、桃の節句や彼岸などの行事のほか、卒業・入学や就職・転勤などで、贈り物を贈る機会が多い季節です。贈り物でよく選ばれるのが、お菓子。大切な人や親しい人などへ、手土産や贈答品として使われています。市内にある様々な菓子店などでは、特色あるお菓子が作られています。ここでは、市内に新しく誕生した、地域や歴史にちなんだお菓子をご紹介します。

みんなお菓子大好き！

1月、鹿屋体育大学の構内に響く子どもたちの声。同大学の部活動等に関するクイズに挑戦し、正解した分だけお菓子を食べられる、というユニークな企画のイベントに参加した子どもたちの声でした。

参加したのは子どもだけではありません。その保護者や若い世代の人なども含め、98チーム約320人が参加し、イベントを楽しんでいました。

なお、このイベントには、大隅地域内にある菓子店15店の商品が提供されました。その内容



地域のお菓子を知ろう

現在、食生活は多様化し、郷土菓子を家庭で作る機会が少なくなっています。身近な地域のお菓子やその文化を知ることは、地域の魅力を再発見することにつながり、地域のお菓子を知ることが分かります。

は、ケーキ・焼き菓子・プリン・まんじゅう・団子・さつまいも菓子など様々。鹿屋・大隅のお菓子は、豊富な種類と人気があることが分かります。

お菓子は、特に子どもや女性に大人気。1月14日に鹿屋体育大学で開催されたイベント「タイダイの中までイッテ Sweets！」では、地域の菓子店自慢のお菓子を食べるために、構内のあちこちを巡ってクイズに挑戦していました。

郷土菓子いろいろ

鹿兒島には、いろいろな郷土菓子があります。特産のさつまいもや落花生を使ったものが多いのが、鹿屋のお菓子の特徴。その一部をご紹介します。

さつまいも菓子



芋けんぴやまんじゅう、ケーキ、焼き菓子など、様々な種類が作られています。

あくまき (ちまき)



もち米と灰汁で作るお菓子で、きなこや砂糖をかけて食べます。端午の節句にも欠かせません。

ふくれ菓子



黒砂糖・小麦粉・重曹などを混ぜ合わせ蒸しあげたお菓子。ふくらむので「ふくれ菓子」です。

いこもち



「煎った米の餅で作る餅」なので、「いこ餅」の名に。江戸初期から続く祝い菓子です。

かからん団子



「かから」や「けせん」の葉で包まれた、あずき団子。葉の香りには、団子が傷まないための殺菌効果もあるそうです。

バラ菓子



「ばらのましかのや」では、市内の菓子店で様々なバラのお菓子が作られています。

かるかん



鹿兒島土産の定番・かるかんは、しっとりした味わい。「かるかんまんじゅう」はあんこ入りです。

ねからいも
ねつたば



餅とさつまいもで作る、素朴な味で腹持ちの良いお菓子。きなこなどをかけて食べます。

落花生菓子



鹿屋の名産「だつきしょ」。まんじゅうや最中などのお菓子が人気です。